

〔論文〕

0歳児クラスの個別指導計画の分析

—保育所の個別指導計画の「ねらい」に着目して—

新井明子
Akiko Arai

大阪総合保育大学大学院
児童保育研究科 児童保育専攻

本研究は、0歳児クラスにおける個別指導計画の現状について調査し、「ねらい」に着目した比較検討から、個別指導計画作成の課題を明らかにする。0歳児は、心身の発育・発達が顕著な時期であると同時に、その個人差も大きい。一人一人の子どもの状態に即した保育を展開することができるように個別指導計画の作成が必要となる。本研究では、認可保育所6か所の0歳児個別指導計画を対象に「ねらい」の記載事項を分析した。その結果、立案者により「ねらい」に対し重視する視点が異なることが明らかになった。乳児の育ちを捉えた個別指導計画を作成するためには、「ねらい」を見直し、保育士が「乳児の姿をどのような視点で捉えるか」明確にしていくが必要になる。

キーワード：乳児保育、保育所保育指針、個別指導計画、三つの視点、子ども理解

1. 問題と目的

1. はじめに

2017年改定の保育所保育指針（以下、保育指針とする）では、新たな方向性の一つとして「乳児・1歳以上3歳未満児の保育の充実」を示した。汐見（2018）は、保育所保育指針解説とポイントにおいて『乳児¹⁾から2歳児までの子どもが、生活や遊びのさまざまな場面で主体的に周囲の人や物に興味をもち、直接的に関わっていかうとする姿は、「学びの芽生え」というものである』と示し、乳児保育の意義をより明確化して、その保育内容の充実を図ることを述べている。ある認可保育所では、保育指針を読み解き、改定のポイントに目を向け、保育の実情を見直してきた。実際に保育現場が取り組んできた見直しとは、行事の取り組みや保育環境といった具体的な保育内容や保育方法に対する改善であった。しかしながら、保育実践の方向性を示す指導計画については、経験則や長年の慣例にそった作成の仕方が伝承され、見直しがされてこなかった実情があった。0歳児は、月齢や個人差により育ちの過程が違うため、一人一人に即した援助ができるよう個別性を捉えた計画が必要となる。

本研究では、認可保育所における6か所の0歳児クラス個別指導計画の現状について調査し、「ねらい」に着

目した比較検討から、個別指導計画作成の課題を明らかにする。

2. 先行研究

「乳児保育」に関わる先行研究は多岐にわたり、3歳未満児をキーワードとした研究が行われ、「保育環境」、「子育て支援」、「保育の質」、領域から捉えた「保育方法」について多くの成果が示されている。本研究テーマである「個別指導計画」についての研究では、障害のある子どもや発達の気になる子どもを対象とした研究が多く存在する。例えば、市川・仲本（2021）はインクルーシブ保育に向けた個別指導計画と課題について、個別指導計画が現場に広く導入された現状を結果として示し、理念やシステムに応じた個別指導計画とその活用についての課題を見出している。「個別指導計画」に関する研究は、現状では障害のある子どもや発達の気になる子どもを対象に検討されている。

乳幼児を対象にした「個別指導計画」の研究として、小笠原・前田・匠瑳（2020）が幼児に対する個別指導計画作成の現状と意義について論じている。小笠原らは、子どもの個々の発達に応じた、連続性のある保育を可能にするためには、3歳以上児も個別指導計画を作成することが望ましいと述べている。乳児から3歳未満児に対する、一人一人の発達や活動の実態に即した保育の展開が土台になり、3歳以上児の保育へ継続していくことの意義や個別指導計画の有用性が示されている。しかし、乳児から3歳未満児の個別指導計画の具体的な作成方法や活用については、示されていない。その他に、乳児を

大阪総合保育大学大学院

〒546-0013 大阪府大阪市東住吉区湯里6丁目4-26

a-arai@jonan.ac.jp

対象にした「個別指導計画」の研究は見つけることができなかった。

「指導計画」という視点から捉えた研究では、渡部（2006）が保育指導計画の意義の中で、指導計画の立案指導について、保育の目標やねらいを具体化する保育計画や指導計画の策定がカリキュラム上非常に重要になることを示している。しかし、実際のところ計画立案は、経験則で行われており、保育士が指導計画を系統的に学び、研修を積み重ねていく方法に関する研究は乏しいことを示唆している。三好（2012）は、保育所における指導計画作成に関する実態調査において、経験値の少ない保育士になると、指導計画の必要性が感じられていない結果を示している。保育士が、技術論に主眼を置くのではなく、「計画の意義」や「保育の本質に根差した計画とは何か」を考え、演習を通した指導計画の理解につながる研修が必要であることを示唆している。

小山（2017）の保育現場におけるカリキュラムに関する研究のあり方の先行研究からは、保育所における研修内容とあり方を考察するため、研修内容を分析している。その結果、保育指針 2017 年の改定に伴い、3歳未満児の指導計画の様式や書き方についての研修依頼が増加し、保育士が指導計画を学んでいこうとする意識の転換を示す研究となっている。

一方、石川（2018）は、乳児保育における現状と課題についての研究として、私立、認定こども園に勤務する保育士を対象に質問紙調査を実施し、保育士の意識を丹念に追っている。保育士が、乳児保育で課題と捉えていることは、「活動のレパートリーが少ない」「保育の展開」が上位に挙がり、「指導計画」は回答 13 項目中 7 位であったことを示している。また、漁田（俊子）・山田・酒井・宮地・那須・漁田（武雄）・久保田・日隈（2018）は、3歳未満児の現場保育における現状と課題を考察するため、保育所、幼保連携型認定こども園の研修参加者に質問紙調査を実施し分析をしている。その結果からは、「保護者対応」「環境構成」が乳児保育の実践で困っていること、勉強不足と感じていること上位を示し、「指導計画」は回答 20 項目中 5 位に位置していることを明らかにしている。保育所の乳児保育から課題を考察するため、小島・市野（2019）は、公立保育園、小規模保育園を対象にアンケートを実施している。調査を実施した園が、乳児保育の担当者は常勤と非常勤の組み合わせで配置されていることが多く、指導計画の立案は常勤に任され、保育士が保育業務全般に対し負担感を感じていることを示している。これらの結果から保育士は、日々の保育に直結する具体的な悩みや課題を捉える傾向があるのではないかと考える。

乳児保育における保育計画について、大方（2009）は「子どもが好きに遊ぶ」ということから脱却し、少なくとも接続期には、保育の計画に位置づけた遊びや活動として、年間のテーマや系統性、総合性が必要となると示している。その中で、子どもの実態や発達過程を考えることなく無計画な保育をしたならば、子どもの生命の保持や情緒の安定といった養護のねらいさえ達成されないことについて述べている。乳児保育の指導計画は、単なる書式ではなく、子どもの「育つ」経過を記録しながら、保育士が子ども理解に基づき、見通しをもって援助し関わる過程を記したものとなる。2017 年、保育指針の改定により、3歳未満児保育の充実が図られ、保育の計画及び評価が総則に位置づけられたことから、個別指導計画の作成の意義や方法の転換が求められる。しかし、乳児の個別指導計画の意義や計画の現状、保育士が抱えている課題を検討する研究は、数少ない現状である。

3. 研究目的

本研究は、認可保育所の 0 歳児クラスの個別指導計画の実態について調査し、「ねらい」に着目した比較検討から個別指導計画の課題を明らかにすることを目的とする。

Ⅱ. 研究方法

1. 対象

認可保育所 6 か所（ここでは、A・B・C・D・E・F 保育所とする）の 0 歳児個別指導計画を比較分析する。期間は、2019 年 4 月～2020 年 3 月とする。保育指針が示す、三つの視点がどのようにいかされているか分析するため、保育指針改定後の個別指導計画を選出した。計画記載対象児は、A 保育所 6 名（12 か月 1 名、11 か月 2 名、9 か月 1 名、7 か月 2 名）、B 保育所 6 名（11 か月 2 名、10 か月 1 名、9 か月 2 名、7 か月 1 名）、C 保育所 3 名（11 か月 1 名、9 か月 1 名、7 か月 1 名）、D 保育所 3 名（12 か月 2 名、11 か月 1 名）、E 保育所 6 名（12 か月 3 名、10 か月 1 名、8 か月 1 名、7 か月 1 名）、F 保育所 6 名（12 か月 4 名、10 か月 1 名、8 か月 1 名）である。

2. 調査分析方法

6 か所の 0 歳児クラス担当保育士が、個別指導計画に記載した「ねらい」の記載事項に着目する。保育指針が明記する、乳児保育に関わるねらい及び内容が示す三つの視点から見た記載内容について比較分析をした。乳児

保育の「ねらい」では、乳児期の未分化な発達の特徴を踏まえ、三つの視点から捉えた発達が互いに絡み合い影響し合いながら発達が促されている。よって各保育所が作成した「ねらい」は、三つの視点から捉えた内容で文章が構成されていると考える。そのため、「ねらい」の文章を単語や文節に分けたものをもとに、分析を実施した。保育指針乳児保育の「ねらい」から、対象とするワードを抽出し表1に示す。また、保育士の「ねらい」に対する視点を明確にするため、三つの発達の視点（身体的発達・社会的発達・精神的発達に関する視点）から見た「ねらい」以外にも生起する「ねらい」を抽出し、各保育所の特徴や傾向を分析する。

3. 倫理的配慮

本調査の実施にあたっては、対象保育所の所長に研究目的、研究内容、調査方法、データの匿名性の確保及び守秘義務、データの管理方法、さらに研究結果の公表については、保育所名や個人が特定されないことを文章にて説明をし、文書での同意を得ている。

Ⅲ. 研究結果

1. 三つの視点から捉えた0歳児個別指導計画記載事項の比較

対象となった、A・B・C・D・E・F 保育所0歳児個別指導計画では、表1に示した乳児保育に関わるねらい

表1 保育指針乳児保育に関わる「ねらい」の抽出ワード記載表

保育指針乳児保育に関わる「ねらい」の視点	「ねらい」	抽出ワード
W. 身体的発達に関する視点	W-①身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる	身体感覚が育ち → 快適な環境に 心地よさを感じる
	W-②伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする	体を動かす → はう、歩く 運動しようとする
	W-③食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える	食事 → 睡眠 生活リズムの感覚が芽生える
X. 社会的発達に関する視点	X-①安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる	安心できる関係の下 → 身近な人と 共に過ごす喜びを感じる
	X-②体の動きや表情、発声等により保育士と気持ちを通わせようとする	体の動き、表情、発声 → 保育士と 気持ちを通わせようとする
	X-③身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える	身近な人と → 親しみ 関わりを深め 愛情や信頼感が芽生える
Y. 精神的発達に関する視点	Y-①身の回りのものに親しみ、様々な物に興味や関心をもつ	身の回りのものに親しみ → 様々な物 興味や関心をもつ
	Y-②見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする	見る、触れる、探索する → 身近な環境 自分から関わろうとする
	Y-③身体の諸感覚による認識が豊になり、表情や手足、体の動き等で表現する	身体の諸感覚 → 認識が豊になる 表情や手足の動き 表現する

及び内容に明記されている三つの発達の視点である、身体的、社会的、精神的発達の「ねらい」から抽出したワードにあてはめ、各保育所の「ねらい」の記載事項を分析した。表2から表7は、6か所の個別指導計画に記載された言葉の関係性を抽出した数を表したものである。各保育所の計画立案者により、「ねらい」の言葉の表現は異なっていた。例えばA保育所の場合、表1に示した保育指針の身体的発達に関する視点W-①「心

地よさを感じる」については、「安心・機嫌よく過ごす」と表現していた。各保育所の個別指導計画から抽出したワードは、『保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード』として記載した。三つの視点から着目した記載事項の傾向は、図1から図6に示した。

(1) A 保育所0歳児個別指導計画における「ねらい」
A 保育所の0歳児個別指導計画「ねらい」に記載し

表2 A 保育所0歳児個別指導計画「ねらい」に示された抽出ワード

身体的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	a児12か月	b児11か月	c児11か月	d児9か月	e児7か月	f児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
W	W-①	・身体感覚が育ち								0	21 (12%)	68 (39%)
		・快適な環境に	保育所での生活に慣れ	1	1	1	1	1	1	6		
		・心地よさを感じる	安心・機嫌よく過ごす	4	2	3	2	2	2	15		
	W-②	・体を動かす	移動する・姿勢を変える				1	4	4	9	9 (5%)	
		・はう、歩く							0			
		・運動しようとする							0			
	W-③	・食事	完了食	1	1	1	2	2	2	9	38 (22%)	
			喜んで・楽しい雰囲気	1	4	2	4	2	2	15		
			食べる	1	1	1	2	2	2	9		
			自分で食べようとする	1	3					4		
		・睡眠	安心して眠る			1				1		
		・生活リズムの感覚が芽生える								0		
社会的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	a児12か月	b児11か月	c児11か月	d児9か月	e児7か月	f児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
X	X-①	・安心できる関係の下	見守られながら気持ちを受け止めてもらい	1		1				2	31 (18%)	85 (48%)
		・身近な人と	保育士と特定の保育士に	1	2	1	4	4	3	15		
		・共に過ごす喜びを感じる	安心・安定して過ごす	4	2	2	2	2	2	14		
	X-②	・体の動き、表情、発声	言葉・動作・やりとり		3	2	3			8	22 (13%)	
		・保育士と	保育士と		3	5	3	2		13		
		・気持ちを通わせようとする	心が通じ合う話かけを喜ぶ			1				1		
	X-③	・身近な人と	保育士・友達と他児・周りの子	4	3	2			3	12	32 (18%)	
		・親しみ								0		
		・関わりを深め	やりとり・触れ合い関わりを楽しむ	3	4	4	6	2	1	20		
		・愛情や信頼感が芽生える								0		

精神的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	a児12か月	b児11か月	c児11か月	d児9か月	e児7か月	f児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
Y	Y－①	・身の回りのものに親しみ	身の回りのものに親しむ			1		1	1	3	8 (5%)	15 (9%)
		・様々な物						0				
		・興味や関心をもつ	好きな遊びを楽しむ じっくり遊ぶ			2		2	1	5		
	Y－②	・見る、触れる、探索する							0	4 (2%)		
		・身近な環境	好きな場所				4		4			
		・自分から関わろうとする							0			
	Y－③	・身体の諸感覚	指先・感触・感性を育む		3				3	3 (2%)		
		・認識が豊かになる							0			
		・表情や手足の動き							0			
		・表現する							0			
その他の視点		保育指針の「ねらい」以外に抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似しないワード	a児12か月	b児11か月	c児11か月	d児9か月	e児7か月	f児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
Z	Z－①	・着脱	着脱に意欲を持つ	2	1					3	6	6
			着替えようとする	2	1					3	(3%)	(3%)
全体抽出数											174	

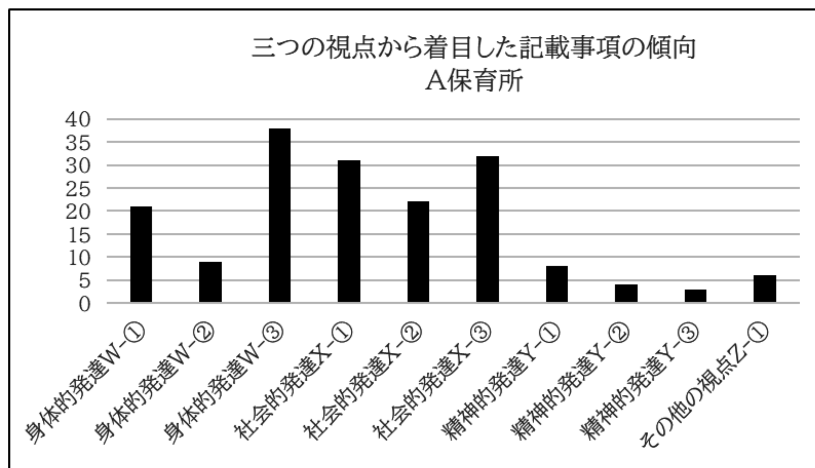


図1 A 保育所0歳児個別指導計画記載事項の傾向

た抽出ワードを表2に、記載事項の傾向を図1に示す。

表2に示した結果より、A 保育所が0歳児個別指導計画に記載した「ねらい」を三つの視点から見てはめ、抽出したワードは、全体で174個あった。第1位が身体的発達に関する視点W-③38個、第2位は社会的発達に関する視点X-③32個、第3位は同様の視点X-①31

個である。抽出数が多かった、身体的発達に関する「ねらい」W-③では、抽出ワードである「食事」に関する言葉を一番多く記載していた。三つの視点から見ると、社会的発達に関する「ねらい」の記載が、全体の48%の割合を示した。多数のワードを使い、社会的発達の視点から「ねらい」を記載していることが読み取れる。一

方、精神的発達に関する「ねらい」のY-①から③の抽出ワードは少なく、全体でも9%の割合となった。さらに、三つの視点以外には、少数であるが「着脱」に関するワードを6個抽出した。図1からも、A保育所は、身体的発達と社会的発達に関する「ねらい」の記載傾向の高いことが読み取れる。

(2) B保育所0歳児個別指導計画における「ねらい」

B保育所の0歳児個別指導計画「ねらい」に記載した抽出ワードを表3に、記載事項の傾向を図2に示す。

表3に示した結果より、B保育所が0歳児個別指導計画の「ねらい」を三つの視点にあてはめ、抽出したワードは全体で295個であった。第1位が身体的発達に關す

表3 B保育所0歳児個別指導計画「ねらい」に示された抽出ワード

身体的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	a児11か月	b児11か月	c児10か月	d児9か月	e児9か月	f児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数	
W	W－①	・身体感覚が育ち								0	15 (5%)	214 (73%)	
		・快適な環境に	新しい環境に	1	1	1	1	1	1	6			
		・心地よさを感じる	慣れる	1	1	3	1	1	2	9			
	W－②	・体を動かす	体を動かす	12	12	6	9	8		47	71 (24%)		
		・はう、歩く	いろいろな姿勢(はうなど)	2	2	6		3	11	24			
		・運動しようとする								0			
	W－③	・食事	離乳食・完了食・幼児食食事	11	11	9	7	7	8	53	128 (43%)		
			手づかみ・食具を使って			1	5	4	3	13			
			慣れる・噛んで食べる						2	2			
			自分で食べようとする	11	11	10	10	9	8	59			
		・睡眠	睡眠をとる						1	1			
		・生活リズムの感覚が芽生える								0			
社会的発達	保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	a児11か月	b児11か月	c児10か月	d児9か月	e児9か月	f児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数		
X	X－①	・安心できる関係の下								0	3 (1%)	17 (6%)	
		・身近な人と	保育士と一緒に				3			3			
		・共に過ごす喜びを感じる								0			
	X－②	・体の動き、表情、発声	やりとり	4			3			7	10 (3%)		
		・保育士と	保育士と				3			3			
		・気持ちを通わせようとする								0			
	X－③	・身近な人と	保育士・友達と	4							4		4 (1%)
		・親しみ									0		
		・関わりを深め									0		
		・愛情や信頼感が芽生える									0		

精神的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード		a児11か月	b児11か月	c児10か月	d児9か月	e児9か月	f児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
Y	Y－①	・身の回りのものに親しみ									0	0 (0%)	64 (22%)
		・様々な物									0		
		・興味や関心をもつ									0		
	Y－②	・見る、触れる、探索する	探索活動や	10	10		1	8		29	58 (20%)		
		・身近な環境								0			
		・自分から関わろうとする	遊ぶ・遊ぶことを楽しむ	10	10		1	8		29			
	Y－③	・身体の諸感覚	指先を使った			6				6	6 (2%)		
		・認識が豊かになる								0			
		・表情や手足の動き								0			
		・表現する								0			
全体抽出数												295	

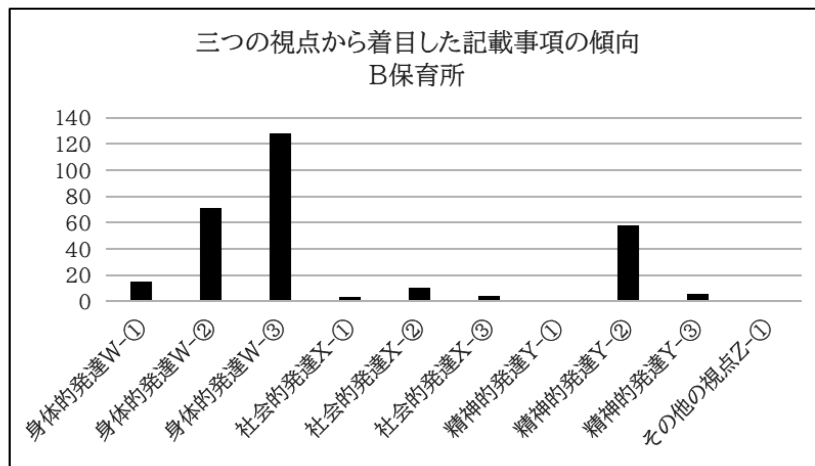


図2 B保育所0歳児個別指導計画記載事項の傾向

る視点W-③128個、第2位が身体的発達に関する視点W-②71個、第3位が精神的発達に関する視点Y-②58個である。身体的発達に関する視点の「ねらい」W-③の抽出は、全体の43%の割合を示し、「食事」に関する「ねらい」を数多く記載していることがわかった。一方、社会的発達に関する「ねらい」視点のX-①から③の抽出ワードは少なく、全体の6%という割合を示した。さらに、精神的な発達に関する視点の「ねらい」は、視点Y-②の抽出は全体の20%の割合を示したが、視点Y-①と③の「ねらい」の抽出数は少なかった。B保育所においては、三つの視点以外の「ねらい」は抽出できなかった。図2からも、B保育所は身体的発達に関する「ねらい」の記載傾向の高いことが読み取れ

た。

(3) C保育所0歳児個別指導計画における「ねらい」

C保育所の0歳児個別指導計画「ねらい」に記載した抽出ワードを表4に、記載事項の傾向を図3に示す。

表4に示した結果より、C保育所が0歳児個別指導計画に記載した「ねらい」を三つの視点にあてはめ、抽出したワードは、全体で137個あった。その中で、第1位身体的発達に関する視点W-③61個、第2位に身体的発達の視点W-②22個、第3位に社会的発達の視点X-①19個である。身体的発達に関する「ねらい」の視点W-③は、全体の45%の割合を示し、「食事」に関する「ねらい」を数多く記載していることがわかった。

0歳児クラスの個別指導計画の分析

表4 C 保育所0歳児個別指導計画「ねらい」に示された抽出ワード

身体的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード		a児11か月	b児9か月	c児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
W	W－①	・身体感覚が育ち						0	6 (4%)	89 (65%)
		・快適な環境に	保育所での生活に慣れ	1	1	1	3			
		・心地よさを感じる	安心して過ごす	1	1	1	3			
	W－②	・体を動かす	体を十分に動かして遊ぶ	2	10	10	22	22 (16%)		
		・はう、歩く					0			
		・運動しようとする					0			
	W－③	・食事	離乳食・完了食・幼児食	7	12	10	29	61 (45%)		
			慣れる・食べる・噛む	3	11	5	19			
			喜んで食べる	4	1	7	12			
・睡眠					0					
・生活リズムの感覚が芽生える		生活リズムが一定	1			1				
社会的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード		a児11か月	b児9か月	c児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
X	X－①	・安心できる関係の下						0	19 (14%)	43 (31%)
		・身近な人と	保育士	1	2	2	5			
		・共に過ごす喜びを感じる	安心して過ごす 楽しく過ごす	6	6	2	14			
	X－②	・体の動き、表情、発声	片言	4			4	16 (12%)		
		・保育士と	保育士の	4			4			
		・気持ちを通わせようとする	言葉がけを喜び 動作で応える	8			8			
	X－③	・身近な人と	保育士・友達と	4			4	8 (6%)		
		・親しみ					0			
		・関わりを深め	楽しく過ごす	4			4			
		・愛情や信頼感が芽生える					0			
精神的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード		a児11か月	b児9か月	c児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
Y	Y－①	・身の回りのものに親しみ						0	0 (0%)	5 (4%)
		・様々な物						0		
		・興味や関心をもつ						0		
	Y－②	・見る、触れる、探索する	探索活動・好きな遊び	5			5	5 (4%)		
		・身近な環境					0			
		・自分から関わろうとする					0			
	Y－③	・身体の諸感覚					0	0 (0%)		
		・認識が豊かになる					0			
		・表情や手足の動き					0			
・表現する						0				
全体抽出数									137	

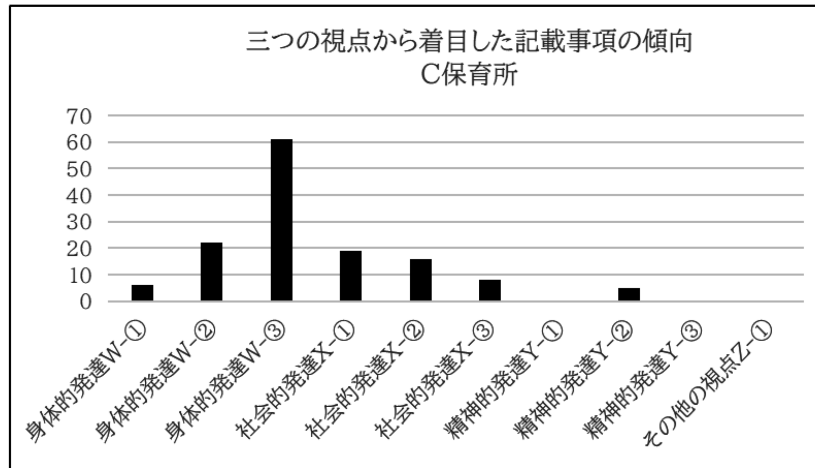


図3 C保育所0歳児個別指導計画記載事項の傾向

抽出ワードが多かった身体的発達に関する「ねらい」の視点W-②は、全体の16%、社会的発達に関する視点X-①は14%、視点X-②は12%の割合を示している。しかしながら、精神的発達に関する視点の「ねらい」に関しては、視点Y-①と③は記載がなく、視点Y-②に関しても4%の割合の結果を示し、記載が少ないことが

わかった。図3からも、C保育所は、身体的発達の視点に関わる記載傾向の高いことが読み取れた。

(4) D保育所0歳児個別指導計画における「ねらい」

D保育所の0歳児個別指導計画「ねらい」に記載した抽出ワードを表5に、記載事項の傾向を図4に示す。

表5 D保育所0歳児個別指導計画「ねらい」に示された抽出ワード

身体的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード			a児12か月	b児12か月	c児11か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
W	W－①	・身体感覚が育ち							0	10 (7%)	40 (30%)
		・快適な環境に	新しい環境に慣れ 安心できる環境	1	1	3	5				
		・心地よさを感じる	安心して生活できるようにする 安心して過ごす	1	1	3	5				
	W－②	・体を動かす	様々な動き・体を動かし	6		3	9	13 (10%)			
		・はう、歩く	歩行			2	2				
		・運動しようとする	運動用具を使って遊ぶ			2	2				
	W－③	・食事	色々な食品・食事	6			6	17 (13%)			
			食具を使って	2			2				
			楽しい雰囲気	3			3				
			慣れる・食べる・噛む	6			6				
		・睡眠					0				
		・生活リズムの感覚が芽生える					0				

0歳児クラスの個別指導計画の分析

社会的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード		a児12か月	b児12か月	c児11か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
X	X－①	・安心できる関係の下	見守られ	2			2	13 (10%)	68 (51%)	
		・身近な人と	保育士に・保育士と安心できる保育士に見守られ	1	2	3	6			
		・共に過ごす喜びを感じる	欲求・要求を受け止めてもらい機嫌よく過ごす 触れ合いの中安心して過ごす 安心して遊ぶ	2	1	2	5			
	X－②	・体の動き、表情、発声	言葉・単語・やりとり 言葉を発する 喃語や片言	4	4	1	9	17 (13%)		
		・保育士と	保育士と	1		3	4			
		・気持ちを通わせようとする	心が通じ合う 感情・欲求 要求を伝えようとする			4	4			
	X－③	・身近な人と	保育士・友達と	8	5	4	17	38 (28%)		
		・親しみ	関わりを楽しみ 関わりの中で楽しむ	5	5	3	13			
		・関わりを深め	やりとり・関わり 言葉のやりとり 関わり方を知る	3	4	1	8			
		・愛情や信頼感が芽生える					0			
精神的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード		a児12か月	b児12か月	c児11か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
Y	Y－①	・身の回りのものに親しみ	回りのもの 素材	1	1		2	3 (2%)	24 (18%)	
		・様々な物					0			
		・興味や関心をもつ	興味や関心をもつ	1			1			
	Y－②	・見る、触れる、探索する	探索活動・好きな遊び	8	1	4	13	13 (10%)		
		・身近な環境					0			
		・自分から関わろうとする					0			
	Y－③	・身体の諸感覚	手・指		1		1	8 (6%)		
		・認識が豊かになる	感触を楽しむ		1		1			
		・表情や手足の動き	自分の気持ちを様々な方法で		3		3			
		・表現する	表現する		3		3			
その他の視点		保育指針の「ねらい」以外に抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似しないワード		a児12か月	b児12か月	c児11か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
Z	Z－①	・着脱	着脱や出来ることは自分でやろうとする		2		2	2 (1%)	2 (1%)	
全体抽出数									134	

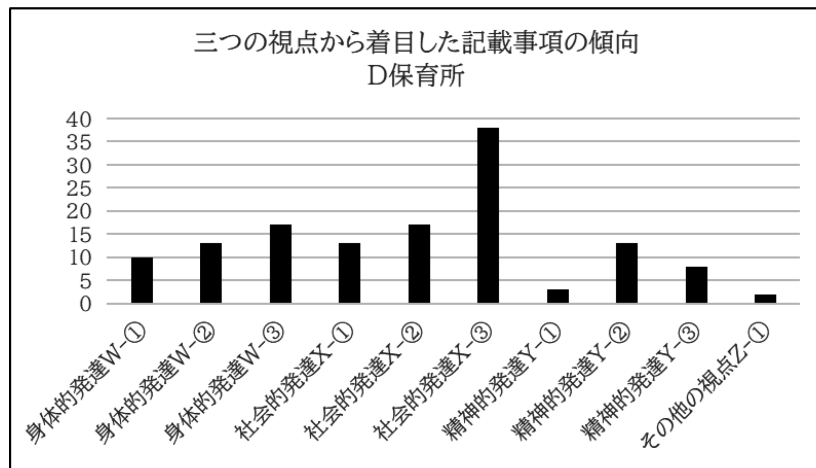


図4 D保育所0歳児個別指導計画記載事項の傾向

表5に示した結果より、D保育所が0歳児個別指導計画に記載した「ねらい」を三つの視点にあてはめ、抽出したワードは、全体で134個あった。第1位は社会的発達に関する視点X-③38個、第2位は身体的発達に関する視点W-③と社会的発達に関する視点X-②の各17個、第3位は身体的発達に関する視点W-②、社会的発達に関する視点X-①、精神的発達に関する視点Y-②の各13個である。社会的発達に関する「ねらい」の視点X-③は、全体の28%の割合を示した。D保育所においては、抽出数に差異はあったが、三つの発達に

関する視点のワードを使い、個別指導計画の「ねらい」を作成していたことが読み取れた。また、図4からも、三つの視点からワードを記載している傾向が読み取れる。さらに、抽出数は少ないが、「着脱」に関するワードを2個抽出した。

(5) E保育所0歳児個別指導計画における「ねらい」

E保育所の0歳児個別指導計画「ねらい」に記載した抽出ワードを表6に、記載事項の傾向を図5に示す。

表6 E保育所0歳児個別指導計画「ねらい」に示された抽出ワード

身体的発達	保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	a 児 12 か 月	b 児 12 か 月	c 児 12 か 月	d 児 10 か 月	e 児 8 か 月	f 児 7 か 月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
W	W-①	・身体感覚が育ち							0	13 (6%)	124 (58%)
		・快適な環境に	新しい環境に慣れ	1	1	1	1	1	6		
		・心地よさを感じる	安心して過ごす・過ごせるようになる	1	1	1	1	2	7		
	W-②	・体を動かす	移動する・姿勢を変える	1	4	2	3	5	2	17	
		・はう、歩く	はう・歩く						1	1	
		・運動しようとする							0		
	W-③	・食事	離乳食・完了食・幼児食 食事・食材	7	5	1	7	7	3	30	
			手づかみ・食具を使って	4	5	1	2	2	4	18	
			食べる・食べようとする・ 噛む	8	6		2	3	9	28	
			食事を楽しむ・喜んで食 べる	1		1	7	5		14	
		・睡眠	安心して眠る	1						1	
		・生活リズムの感覚が 芽生える	生活リズムを整える			1			1	2	

0歳児クラスの個別指導計画の分析

社会的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード		a児12か月	b児12か月	c児12か月	d児10か月	e児8か月	f児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
X	X－①	・安心できる関係の下	安心できる・落ち着いた雰囲気 思いを受け止めてもらい		1	6	2	2	3	14	52 (25%)	74 (35%)	
		・身近な人と	保育士と一緒に・保育士に	3	2	9	1	2	6	23			
		・共に過ごす喜びを感じる	安心して・安定して 過ごせるようになる・過ごす	1	1	7	2	1	3	15			
	X－②	・体の動き、表情、発声	喃語・発語・言葉指さし・身振り・やりとり 欲求・思い	5	3	4			1	13	22 (10%)		
		・保育士と	保育士・友達と						1	1			
		・気持ちを通わせようとする	心が通じ合う 楽しむ	2		4			2	8			
	X－③	・身近な人と								0	0 (0%)		
		・親しみ								0			
		・関わりを深め								0			
		・愛情や信頼感が芽生える								0			
精神的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	a児12か月	b児12か月	c児12か月	d児10か月	e児8か月	f児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数	
Y	Y－①	・身の回りのものに親しみ								0	0 (0%)	6 (3%)	
		・様々な物								0			
		・興味や関心をもつ								0			
	Y－②	・見る、触れる、探索する	探索活動	2	1	1	1	1		6	6 (3%)		
		・身近な環境								0			
		・自分から関わろうとする								0			
	Y－③	・身体の諸感覚								0	0 (0%)		
		・認識が豊かになる								0			
		・表情や手足の動き								0			
		・表現する								0			
その他の視点		保育指針の「ねらい」以外に抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似しないワード	a児12か月	b児12か月	c児12か月	d児10か月	e児8か月	f児7か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数	
Z	Z－①	・着脱	自分で簡単な着脱をする	2	2			1	1	6	8	8	
			自分でやろうとする	2						2	(4%)	(4%)	
全体抽出数												212	

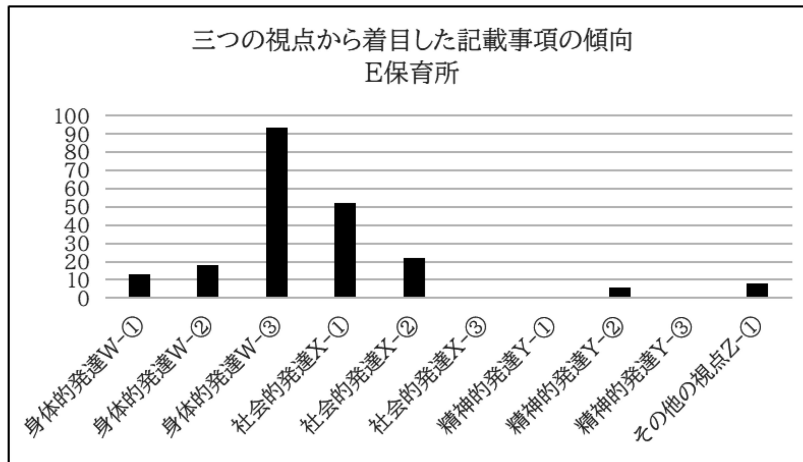


図5 E保育所0歳児個別指導計画記載事項の傾向

表6に示した結果より、E保育所が0歳児個別指導計画に記載した「ねらい」を三つの視点にあてはめ、抽出したワードは全体で212個あった。第1位は身体的発達に関する視点W-③93個、第2位は社会的発達に関する視点X-①52個、第3位は社会的発達に関する視点X-②22個である。身体的発達に関する「ねらい」の視点W-③は、全体の44%の割合を示し、「食事」に関する「ねらい」を数多く記載していることがわかった。社会的発達に関する「ねらい」の視点X-①は、全体の25%の割合を示し、「保育士」という抽出ワードが多

かった。精神的発達に関する「ねらい」の視点からは、視点Y-①と③は記載がなく、視点Y-②より「探索活動」を6個抽出した。また、三つの視点以外に「着脱」に関するワードを8個抽出した。図5からも、身体的発達の視点に関わる記載傾向の高いことが読み取れた。

(6) F保育所0歳児個別指導計画における「ねらい」

F保育所の0歳児個別指導計画「ねらい」に記載した抽出ワードを表7に、記載事項の傾向を図6に示す。

表7 F保育所0歳児個別指導計画「ねらい」に示された抽出ワード

身体的発達		保育指針の「ねらい」より抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード		a児12か月	b児12か月	c児8か月	d児12か月	e児12か月	f児10か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
W	W－①	・身体感覚が育ち									0	24 (9%)	123 (44%)
		・快適な環境に	保育所の生活に慣れ	1	1	4	1	1	1	9			
		・心地よさを感じる	安心・機嫌よく過ごす	2	2	6	2	2	1	15			
	W－②	・体を動かす	身体を動かし	1	2	1	2	3	4	13	30 (11%)		
		・はう、歩く	つかまり立ち・ハイハイ・お座り 自分で歩く 手足を使う	1	1	7	2		4	15			
		・運動しようとする	運動遊び・遊ぶ	1		1				2			
	W－③	・食事	完了食・幼児食 食材	4	3	10	2	1		20	69 (25%)		
			椅子に座る		3		1			4			
			手づかみ・食具・コップ					2	2	4			
			慣れる 食べる・自分で食べる・噛む	5	4	7	4	3	8	31			

0歳児クラスの個別指導計画の分析

			楽しく食事をする 楽しい雰囲気の中喜んで 食事をする	1	3	1				5			
		・睡眠	安心して眠る		1				1	2			
		・生活リズムの感覚が 芽生える	生活リズムを整える・安定 する			3				3			
社会的 発達		保育指針の 「ねらい」より 抽出したワード	保育指針の「ねらい」の 表現に類似したワード	a 児 12 か 月	b 児 12 か 月	c 児 8 か 月	d 児 12 か 月	e 児 12 か 月	f 児 10 か 月	抽出 数	抽出 合計 数	抽出 総数	
X	X－①	・安心できる関係の下	安心できる・安心して 愛着行動の受容より 思いを受け止めてもらう	2	1					3	20 (7%)	90 (32%)	
		・身近な人と	保育士と・一緒に	5	3	1	1	1		11			
		・共に過ごす喜びを感 じる	安心して過ごす・遊ぶ 触れ合う	3	2		1			6			
	X－②	・体 の 動 き、表 情、 発声	発語・喃語・言葉のやりとり 指さし・しぐさ 二語文 欲求・思い	6			2	3	4	15	66 (23%)		
		・保育士と	保育士に・保育士・友達と	7	4	2	6	2	4	25			
		・気持ちを通わせよう とする	表現する・思いが伝わる 受け止めてもらう 楽しむ 触れ合って遊ぶ 共感してもらう 関わり方を知る・存在を感じる	5	4	2	8	3	4	26			
	X－③	・身近な人と	保育士・友達		1	1				2	4 (1%)		
		・親しみ	同じ場で遊ぶ			1				1			
		・関わりを深め	触れ合いを楽しむ		1					1			
		・愛情や信頼感が芽 生える								0			
精神的 発達		保育指針の 「ねらい」より 抽出したワード	保育指針の「ねらい」の 表現に類似したワード	a 児 12 か 月	b 児 12 か 月	c 児 8 か 月	d 児 12 か 月	e 児 12 か 月	f 児 10 か 月	抽出 数	抽出 合計 数	抽出 総数	
Y	Y－①	・身の回りのものに 親しみ								0	0 (0%)	11 (4%)	
		・様々な物								0			
		・興味や関心をもつ								0			
	Y－②	・見る、触れる、探 索する	好きな遊びを見つける・ 楽しむ 探索活動		3	3			2	8	11 (4%)		
		・身近な環境	いろいろなところ・戸外			1		2		3			
		・自分から関わろう とする								0			
	Y－③	・身体の諸感覚									0		0 (0%)
		・認識が豊かになる									0		
		・表情や手足の動き									0		
		・表現する									0		

その他の視点		保育指針の「ねらい」以外に抽出したワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似しないワード	a児12か月	b児12か月	c児8か月	d児12か月	e児12か月	f児10か月	抽出数	抽出合計数	抽出総数
Z	Z－①	・着脱	着脱をする				3	3		6	17 (6%)	57 (20%)
			自分でやろうとする		1		3	6	1	11		
	Z－②	・身支度	身の回りのことを自分でやろうとする（自分の持ち物を持ってくる、靴を履こうとする）	1			1	3	1	6	6 (2%)	
			オマル・便座に	4	1		1	3	7	16		
	Z－③	・排泄	慣れる	4	1		1	3	9	18		
			座って・排泄しようとする									
全体抽出数											281	

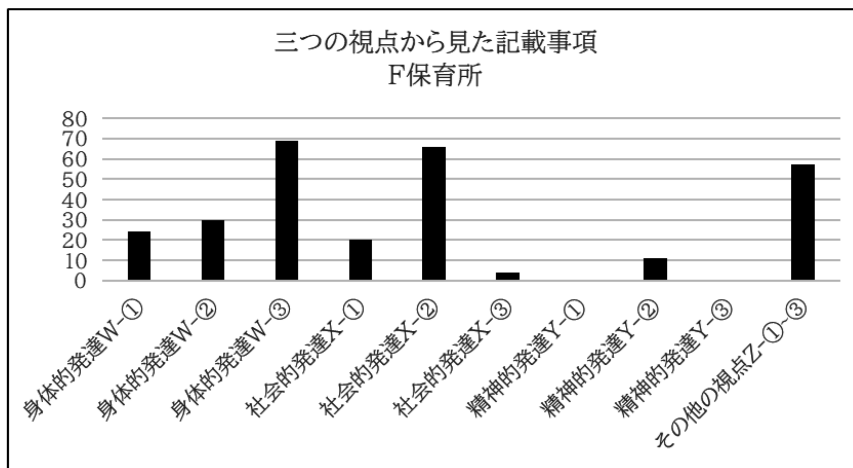


図6 F保育所 2019 年個別指導計画記載事項の傾向

表7に示した結果より、F保育所が0歳児個別指導計画に記載した「ねらい」を三つの視点にあてはめ、抽出したワードは全体で281個であった。第1位は身体的発達に関する視点W-③69個、第2位は社会的発達に関する視点X-②66個、第3位は着脱・身支度・排泄に関する視点57個である。身体的発達に関する「ねらい」の視点W-③は、全体的に25%の割合を示し、社会的発達に関する「ねらい」の視点X-②は、23%の割合を示した。社会的発達に関する視点X-③、精神的発達に関する視点Y-①から③は、抽出数が少なかった。三つの視点全体から見ると、身体的発達に関する視点は44%、社会的発達に関する視点は32%、精神的発達に関する視点は4%の割合を示している。この結果と図6に示された記載の傾向により、精神的発達に関する視点の「ねらい」が最も少なかったことがわかった。また、三つの視点以外に「着脱」「身支度」「排泄」に関するワードを抽出し、全体の20%の割合を示した。「身支度」の中の「身の回りのことを自分でやろうとする」に関し

ては、「内容」や「配慮事項」の記載内容から、「自分の持ち物がわかり持ってくる」「靴を自分で履こうとする」ことを表していた。

2. 各発達に関する視点から捉えた0歳児個別指導計画記載事項の比較

対象となった、A・B・C・D・E・F保育所0歳児個別指導計画「ねらい」の記載事項から、各発達に関する視点ごとに捉えた抽出ワードを表8-1から表13-4に示し、記載内容や傾向を分析しその結果を以下に述べる。

(1) A保育所の0歳児個別指導計画記載事項の比較

A保育所の0歳児個別指導計画の「ねらい」の表現に類似した、各発達の視点(身体的、社会的、精神的発達に関する視点)ごとの抽出ワードを表8-1から表8-4に示す。

① 身体的発達に関する視点の記載事項

表8-1 A 保育所個別指導計画「ねらい」身体的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
W	W-①	・身体感覚が育ち	0	21
		・快適な環境に	6	
		・心地よさを感じる	15	
	W-②	・体を動かす	9	9
		・はう、歩く	0	
		・運動しようとする	0	
	W-③	完了食	9	38
		喜んで・楽しい雰囲気	15	
		食べる	9	
		自分で食べようとする	4	
		・睡眠	1	
		・生活リズムの感覚が芽生える	0	

表8-1より、A 保育所の個別指導計画では、身体的発達に関する視点W-③において「食事」に関するワードを多く抽出した。「喜んで・楽しい雰囲気」が15回使われていたことから、食事環境に視点を置いていることが読み取れた。また「完了食²⁾」「食べる」が9回使われたことにより、食事形態や食べる経験に対しても視点を置いていた。一方、睡眠や生活リズムに関する

ワードが少なかった。また、視点W-①の「安心・機嫌よく過ごす」が15回使われたことから、生理的欲求に関する「ねらい」に着目していることがわかる。視点W-②では、「はう、歩く」「運動しようとする」ワードの記載がないことから、身体動作の「ねらい」に視点が置かれていなかったことを推察した。

② 社会的発達に関する視点の記載事項

表8-2 A 保育所個別指導計画「ねらい」社会的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
X	X-①	見守られながら 気持ちを受け止めてもらい	2	31
		・身近な人と	15	
		・共に過ごす喜びを感じる	14	
	X-②	・体の動き、表情、発声	8	22
		・保育士と	13	
		・気持ちを伝えようとする	1	
	X-③	保育士・友達と 他児・周りの子	12	32
		・親しみ	0	
		・関わりを深め	20	
		・愛情や信頼感が芽生える	0	

表8-2より、社会的発達に関する視点X-①から③は、抽出総数より「ねらい」の中で多く使われていたこ

とがわかった。視点X-①は「保育士と」「特定の保育士に」が15回、「安心・安定して過ごす」が14回使わ

れ、身近な人との安心できる関係に視点を置いていた。視点X-②は、「保育士と」が13回「言葉・動作・やりとり」が8回使われ、視点X-③では、「やりとり・触れ合い・関わりを楽しむ」が20回使われたことにより、

保育士との関わりを重視していることが読み取れた。「親しむ」「愛情や信頼感が芽生える」に関しての記載はなく、関わる行為に視点を置いていることを推察した。

③ 精神的発達に関する視点の記載事項

表8-3 A 保育所個別指導計画「ねらい」精神的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード		保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
Y	Y-①	・身の回りのものに親しみ	身の回りのものに親しむ	3	8
		・様々な物		0	
		・興味や関心をもつ	好きな遊びを楽しむ じっくり遊ぶ	5	
	Y-②	・見る、触れる、探索する		0	4
		・身近な環境	好きな場所	4	
		・自分から関わろうとする		0	
	Y-③	・身体の諸感覚	指先・感触・感性を育む	3	3
		・認識が豊かになる		0	
		・表情や手足の動き		0	
		・表現する		0	

表8-3より、精神的発達に関する視点Y-①から「好きな遊びを楽しむ・じっくり遊ぶ」が5回、視点Y-②から「好きな場所」が4回使われ、身近な環境や興味や関心をもつことに視点を置いていることを読み

取った。視点Y-③から「指先・感触・感性を育む」を3回使っていた。しかしながら、他の抽出ワードは抽出できず、精神的発達に関する視点の「ねらい」は記載が少ないことがわかった。

④ 三つの視点以外の記載事項

表8-4 A 保育所個別指導計画「ねらい」基本的生活習慣の視点における抽出ワード

	抽出ワード		保育指針の「ねらい」の表現に類似しないワード	抽出数	抽出合計数
Z	Z-①	・着脱	着脱に意欲を持つ	3	6
			着替えようとする	3	

表8-4より、三つの発達の視点以外に基本的生活習慣³⁾の一項目である「着脱」についてのワードを抽出した。「着脱に意欲を持つ」は3回、「着替えようとする」を3回使われていたことにより「着替えに対する意欲」を育てようとしていることが読み取れた。

(2) B 保育所の0歳児個別指導計画記載事項の比較

B 保育所の0歳児個別指導計画の「ねらい」の表現に類似した、各発達の視点（身体的、社会的、精神的発達に関する視点）ごとの抽出ワードを表9-1から表9-3に示す。

① 身体的発達に関する視点の記載事項

表9-1 B保育所個別指導計画「ねらい」身体的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード		保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
W	W-①	・身体感覚が育ち		0	15
		・快適な環境に	新しい環境に	6	
		・心地よさを感じる	慣れる	9	
	W-②	・体を動かす	体を動かし	47	71
		・はう、歩く	いろいろな姿勢（はうなど）	24	
		・運動しようとする		0	
	W-③	・食事	離乳食・完了食・幼児食 食事	53	128
			手づかみ・食具を使って	13	
			慣れる・噛んで食べる	2	
			自分で食べようとする	59	
		・睡眠	睡眠をとる	1	
		・生活リズムの感覚が芽生える		0	

表9-1より、B保育所の個別指導計画では、身体的発達に関する視点W-③の「食事」に関するワードが最も多かった。「離乳食・完了食・幼児食⁴⁾・食事」が53回、「自分で食べようとする」が59回使われており、食事形態や食事の意欲に視点を置いていることがわかつ

た。一方、睡眠に関するワードは、1回であり記載が少なかった。視点W-②からは、「体を動かし」を47回、「いろいろな姿勢」を24回使い、身体動作に視点を置いていた。

② 社会的発達に関する視点の記載事項

表9-2 B保育所個別指導計画「ねらい」社会的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード		保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
X	X-①	・安心できる関係の下		0	3
		・身近な人と	保育士と一緒に	3	
		・共に過ごす喜びを感じる		0	
	X-②	・体の動き、表情、発声	やりとり	7	10
		・保育士と	保育士と	3	
		・気持ちを通わせようとする		0	
	X-③	・身近な人と	保育士・友達と	4	4
		・親しみ		0	
		・関わりを深め		0	
		・愛情や信頼感が芽生える		0	

表9-2より、B保育所の社会的発達の視点に関わるワードの記載は少なかった。視点X-①から③で、共通して「保育士」というワードが使われていた。しかしながら、視点X-②「やりとり」を7回使っていたが、他

に関わりや気持ちを通わせるワードについては記載がなかった。保育士とどのような関わりをしていくのか、この結果から読み取ることはできなかった。

③ 精神的発達に関する視点の記載事項

表9-3 B 保育所個別指導計画「ねらい」精神的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード		保育指針の「ねらい」の 表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
Y	Y－①	・身の回りのものに親しみ		0	0
		・様々な物		0	
		・興味や関心をもつ		0	
	Y－②	・見る、触れる、探索する	探索活動や	29	58
		・身近な環境		0	
		・自分から関わろうとする	遊ぶ・遊ぶことを楽しむ	29	
	Y－③	・身体の諸感覚	指先を使った	6	6
		・認識が豊かになる		0	
		・表情や手足の動き		0	
		・表現する		0	

表9-3より、精神的発達の視点Y-②「探索活動や」が29回、「遊ぶ・遊ぶことを楽しむ」が29回使われていることがわかった。身近な物に関わることに視点を置いていることが読み取れた。しかし、視点Y-①のワードは記載がなく、視点Y-③に関しても「指先をつかった」を6回使っていたが、他の記載はなかった。精神的発達に関する視点は、探索活動に重点を置いている

ことが読み取れた。

(3) C 保育所の0歳児個別指導計画記載事項の比較

C 保育所の0歳児個別指導計画の「ねらい」の表現に類似した、各発達の視点（身体的、社会的、精神的発達に関する視点）ごとの抽出ワードを表10-1から表10-3に示す。

① 身体的発達に関する視点の記載事項

表10-1 C 保育所個別指導計画「ねらい」身体的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード		保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
W	W－①	・身体感覚が育ち		0	6
		・快適な環境に	保育所での生活に慣れ	3	
		・心地よさを感じる	安心して過ごす	3	
	W－②	・体を動かす	体を十分に動かして遊ぶ	22	22
		・はう、歩く		0	
		・運動しようとする		0	
	W－③	・食事	離乳食・完了食・幼児食	29	61
			慣れる・食べる・噛む	19	
			喜んで食べる	12	
		・睡眠		0	
・生活リズムの感覚が芽生える		生活リズムが一定	1		

表10-1より、C 保育所の個別指導計画では、身体的発達に関する視点W-③の「食事」に関するワードが多く使われていた。「離乳食・完了食・幼児食」が29回、「慣れる・食べる・噛む」が19回、「喜んで食べる」が12回という結果より、食事形態や食事の意欲に視点を置いていることが読み取れた。一方、「生活リズムが一

定」が1回使われている他、食事以外の視点は記載がなかった。視点では、「体を十分に動かして遊ぶ」が22回使われていたが、はう、歩く等の身体発達や運送に関する記載はなかった。視点W-①は記載が少なく、「保育所での生活に慣れ」を3回、「安心して過ごす」を3回使い、生理的欲求に関する「ねらい」を表現していた。

② 社会的発達に関する視点の記載事項

表 10-2 C 保育所個別指導計画「ねらい」社会的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード		保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
X	X-①	・安心できる関係の下		0	19
		・身近な人と	保育士	5	
		・共に過ごす喜びを感じる	安心して過ごす 楽しく過ごす	14	
	X-②	・体の動き、表情、発声	片言	4	16
		・保育士と	保育士の	4	
		・気持ちを伝えようとする	言葉がけを喜び 動作で応える	8	
	X-③	・身近な人と	保育士・友達と	4	8
		・親しみ		0	
		・関わりを深め	楽しく過ごす	4	
		・愛情や信頼感が芽生える		0	

表 10-2 より、社会的発達に関する視点は、各抽出総数が少なかった。視点 X-①の「安心して過ごす・楽しく過ごす」を 14 回、視点 X-②の「言葉がけを喜び・動作で応える」を 8 回使われていたことがわかった。「ねらい」の中で、保育士の言葉がけ等のやりとりを通し、安心感を持って過ごすことに視点に置いたこと

が読み取れた。しかしながら、視点 X-①から③において「保育士」というワードは、各 4～5 回ずつ使われていたが、社会的発達に関する視点全体から捉えると、記載が少ないことがわかった。視点 X-③の「楽しく過ごす」は 4 回使われ、身近な人との関わりを表していたが、「保育士」のワードと同様に記載は少なかった。

③ 精神的発達に関する視点の記載事項

表 10-3 C 保育所個別指導計画「ねらい」精神的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード		保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
Y	Y-①	・身の回りのものに親しみ		0	0
		・様々な物		0	
		・興味や関心をもつ		0	
	Y-②	・見る、触れる、探索する	探索活動・好きな遊び	5	5
		・身近な環境		0	
		・自分から関わろうとする		0	
	Y-③	・身体の諸感覚		0	0
		・認識が豊かになる		0	
		・表情や手足の動き		0	
		・表現する		0	

表 10-3 より、精神的発達に関する視点の記載では、視点 Y-②は「探索活動・好きな遊び」のみ 5 回使っており、他のワードは記載がなかった。身体的、社会的発達に関する視点と比較しても、抽出合計数が少ないことがわかった。

(4) D 保育所の 0 歳児個別指導計画記載事項の比較

D 保育所の 0 歳児個別指導計画の「ねらい」の表現に類似した、各発達の視点（身体的、社会的、精神的発達に関する視点）ごとの抽出ワードを表 11-1 から表 11-4 に示す。

① 身体的発達に関する視点の記載事項

表 11-1 D 保育所個別指導計画「ねらい」身体的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード		保育指針の「ねらい」の 表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
W	W－①	・身体感覚が育ち		0	10
		・快適な環境に	新しい環境に慣れ 安心できる環境	5	
		・心地よさを感じる	安心して生活できるようにする 安心して過ごす	5	
	W－②	・体を動かす	様々な動き・体を動かし	9	13
		・はう、歩く	歩行	2	
		・運動しようとする	運動用具を使って遊ぶ	2	
	W－③	・食事	色々な食品・食事	6	17
			食具を使って	2	
			楽しい雰囲気	3	
			慣れる・食べる・噛む	6	
		・睡眠		0	
		・生活リズムの感覚が芽生える		0	

表 11-1 より、D 保育所の個別指導計画では、身体的発達に関する「ねらい」において、抽出総数に差異はあるが、視点W-①～③のワードが使われていた。視点W-①は、「新しい環境に慣れ・安心できる環境」が5回、「安心して生活できるようにする・安心して過ごす」が5回使われ、生理的欲求に視点を置き記載していることが読み取れた。視点W-②は「様々な動き・体を動かし」が9回、「歩行」は2回、「運動用具を使って遊

ぶ」を2回使い、身体動作や機能の発達に視点を置いていることを推察した。視点W-③では、「食事」に関するワードの記載が17回あり、「色々な食品・食事」は6回、「慣れる・食べる・噛む」を6回使い、食品に慣れ、食べることに視点を置いていることが推察される。一方、「睡眠」「生活リズムの感覚」に関するワードの記載はなかった。

② 社会的発達に関する視点の記載事項

表 11-2 D 保育所個別指導計画「ねらい」社会的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード		保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
X	X－①	・安心できる関係の下	見守られ	2	13
		・身近な人と	保育士に・保育士と 安心できる保育士に見守られ	6	
		・共に過ごす喜びを感じる	欲求・要求を受け止めてもらい 機嫌よく過ごす 触れ合いの中安心して過ごす 安心して遊ぶ	5	
	X－②	・体の動き、表情、発声	言葉・単語・やりとり 言葉を発する 喃語や片言	9	17
		・保育士と	保育士と	4	
		・気持ちを伝えようとする	心が通じ合う 感情・欲求 要求を伝えようとする	4	
	X－③	・身近な人と	保育士・友達と	17	38
		・親しみ	関わりを楽しみ 関わりの中で楽しむ	13	

		・関わりを深め	やりとり・関わり 言葉のやりとり 関わり方を知る	8
		・愛情や信頼感が芽生える		0

表11-2より、社会的発達に関する視点からも、視点X-①～③のワードが「ねらい」の中で使われていた。視点X-①では、「保育士に・保育士と」等が6回、「見守られ」が2回、「欲求・要求を受け止めてもらい機嫌よく過ごす」等が5回、生理的欲求を満たすための保育士の援助に視点を置いていた。視点X-②では、「言葉・単語・やりとり」等が9回、「保育士と」は4回、

「心が通じ合う」等を4回使い、言葉を受け止め気持ちを通じ合わせることに視点を捉えていた。視点X-③の抽出総数は、一番多く、「保育士・友達と」が17回、「関わりを楽しみ」等は13回、「やりとり・関わり」等は8回使われていた。関わりを持ち楽しむことを視点にしているが、「愛情や信頼感が芽生える」に関するワードは記載がなかった。

③ 精神的発達に関する視点の記載事項

表11-3 D 保育所個別指導計画「ねらい」精神的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
Y	Y-①	・身の回りのものに親しみ	回りのもの 素材	2
		・様々な物		0
		・興味や関心をもつ	興味や関心をもつ	1
	Y-②	・見る、触れる、探索する	探索活動・好きな遊び	13
		・身近な環境		0
		・自分から関わろうとする		0
	Y-③	・身体の諸感覚	手・指の	1
		・認識が豊かになる	感触を楽しむ	1
		・表情や手足の動き	自分の気持ちを様々な方法で	3
		・表現する	表現する	3

表11-3より、精神的発達に関する視点は、「ねらい」の中で抽出数は少ないが、視点Y-①～③のワードを「ねらい」の表現に類似した言葉で表していた。視点Y-①は、身の回りのものや様々な物を「回りのもの・素材」として表現していた。視点Y-②では、「探索活

動・好きな遊び」を13回使い、他の発達に関する視点のワードと組み合わせながら、「ねらい」を表現していた。視点Y-③が示す「ねらい」は「手・指の」「感触を楽しむ」「自分の気持ちを様々な方法で」「表現する」というワードで記載していた。

④ 三つの視点以外の記載事項

表11-4 D 保育所個別指導計画「ねらい」基本的生活習慣の視点における抽出ワード

	抽出ワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似しないワード	抽出数	抽出合計数
Z	Z-①	・着脱	着脱や出来ることは自分でやろうとする	2

表11-4より、基本的生活習慣の一項目である「着脱」についてのワードを抽出した。「着脱や出来ることは自分でやろうとする」を2回使い、着脱に対する意欲を育てようとしていることが読み取れた。

(5) E 保育所の0歳児個別指導計画記載事項の比較

E 保育所の0歳児個別指導計画の「ねらい」の表現に類似した、各発達の視点(身体的、社会的、精神的発達に関する視点)ごとの抽出ワードを表12-1から表12-4に示す。

① 身体的発達に関する視点の記載事項

表 12-1 E 保育所個別指導計画「ねらい」身体的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
W	W-①	・身体感覚が育ち	0	13
		・快適な環境に	6	
		・心地よさを感じる	7	
	W-②	・体を動かす	17	18
		・はう、歩く	1	
		・運動しようとする	0	
	W-③	離乳食・完了食・幼児食 食事・食材	30	93
		手づかみ・食具を使って	18	
		食べる・食べようとする・噛む	28	
		食事を楽しむ・喜んで食べる	14	
		・睡眠	1	
		・生活リズムの感覚が芽生える	2	

表 12-1 より、E 保育所の個別指導計画は、身体的発達に関する視点において、食事に関するワードを多く抽出した。「離乳食・完了食・幼児食・食事・食材」が 30 回使われ、食事形態の変化に視点を置いていた。また、「手づかみ・食具を使って」は 18 回、「食事を楽しむ・喜んで食べる」を 14 回使い、食事に対する意欲や方法にも視点が置かれていた。一方、睡眠や生活リズムの感覚に関するワードは 1～2 回しか使われず、記載が

少ないことがわかった。

視点 W-②は、「移動・姿勢を変える」が 17 回、「はう・歩く」は 1 回使われ、歩行前の体の使い方に視点を置いていた。視点 W-①の「ねらい」では、「新しい環境に慣れ」が 6 回、「安心して過ごす・過ごせるようになる」を 7 回使い、生理的・心理的欲求を満たし心地よく生活することに視点を置いていることを読み取った。

② 社会的発達に関する視点の記載事項

表 12-2 E 保育所個別指導計画「ねらい」社会的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
X	X-①	・安心できる関係の下	14	52
		・身近な人と	23	
		・共に過ごす喜びを感じる	15	
	X-②	喃語・発語・言葉 指差し・身振り・やりとり 欲求・思い	13	22
		・保育士と	1	
		・気持ちを通わせようとする	8	
	X-③	・身近な人と	0	0
		・親しみ	0	
		・関わりを深め	0	
		・愛情や信頼感が芽生える	0	

表12-2より、社会的発達に関する視点では、視点X-①の「ねらい」のワードを多く抽出した。「保育士と一緒に・保育士に」は23回、「思いをうけとめてもらい」等は14回、「安心して・安定して・過ごせるようになる」等が15回使われて、欲求が満たされ安定して過ごせることに視点を置いていた。一方、視点X-②では「喃語・言葉・指差し・欲求・思い」等が13回、「心が通じ合う・楽しむ」は8回使われていたことに対し、

「保育士・友達と」は1回であった。視点X-①の「ねらい」のワードである「身近な人と」を「保育士と一緒に・保育士に」という言葉で類似させ表現していたが、視点X-②の「保育士と」に関しては、「ねらい」の言葉として表現していなかったことがわかった。視点X-③の「ねらい」である、身近な人との関わりや愛情や信頼の芽生えに関するワードの記載はなかった。

③ 精神的発達に関する視点の記載事項

表12-3 E 保育所個別指導計画「ねらい」精神的発達の視点における抽出ワード

抽出ワード		保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数	
Y	Y－①	・身の回りのものに親しみ	0	0	
		・様々な物	0		
		・興味や関心をもつ	0		
	Y－②	・見る、触れる、探索する	探索活動	6	6
		・身近な環境		0	
		・自分から関わろうとする		0	
	Y－③	・身体の諸感覚		0	0
		・認識が豊かになる		0	
		・表情や手足、体の動き		0	
		・表現する		0	

表12-3より、精神的発達に関する視点の記載は、視点Y-②の「探索活動」が6回使われていたが、他のワードの記載はなかった。また身体的、社会的発達に関

する視点と比較しても、抽出合計数の低さから「ねらい」の中で重視されていないことが推察される。

④ 三つの視点以外の記載事項

表12-4 E 保育所個別指導計画「ねらい」基本的生活習慣の視点における抽出ワード

	抽出ワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似しないワード	抽出数	抽出合計数
Z	Z-①	自分で簡単な着脱をする	6	8
		自分でやろうとする	2	

表12-4より、基本的生活習慣の一項目である「着脱」についてのワードを抽出した。「着脱する」が6回、「自分でやろうとする」を2回使い、着脱に関する意欲に視点を置いていることが読み取れた。

(6) F 保育所の0歳児個別指導計画記載事項の比較

F 保育所の0歳児個別指導計画の「ねらい」の表現に類似した、各発達の視点（身体的、社会的、精神的発達に関する視点）ごとの抽出ワードを表13-1から表13-4に示す。

① 身体的発達に関する視点の記載事項

表 13-1 F 保育所個別指導計画「ねらい」身体的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
W	W-①	・身体感覚が育ち	0	24
		・快適な環境に	9	
		・心地よさを感じる	15	
	W-②	・体を動かす	13	30
		・はう、歩く	15	
		・運動しようとする	2	
	W-③	完了食・幼児食 食材	20	69
		椅子に座る	4	
		手づかみ・食具・コップ	4	
		慣れる 食べる・自分で食べる・噛む	31	
		楽しく食事をする 楽しい雰囲気の中喜んで食事をする	5	
		・睡眠	2	
		・生活リズムの感覚が芽生える	3	

表 13-1 より、F 保育所の個別指導計画では、身体的発達に関する視点 W-③の「食事」に関するワードが多く使われていた。「完了食・幼児食・食材」が 20 回、「慣れる・食べる・自分で食べる・噛む」を 31 回使い、食事形態に慣れ自分で食べることに視点を置いていた。「椅子に座る」は 4 回、「手づかみ・食具・コップ」を 4 回使い、姿勢や食具を使った食事方法にも視点を置いていることが読み取れた。「安心して眠る」が 2 回、「生活

リズムを整える・安定する」は 3 回ワードを使い、睡眠や生活リズムの感覚に視点を置いた記載もあった。視点 W-②からは、「身体を動かし」が 13 回、「つかまり立ち・ハイハイ・お座り、手足を使う」等が 15 回使われ、運動に関する具体的表現のワードの記載が見られた。視点 W-①は、「保育所生活に慣れ」が 9 回、「安心・機嫌よく過ごす」を 15 回使い、心地よく生活することに視点を置き記載していた。

② 社会的発達に関する視点の記載事項

表 13-2 F 保育所個別指導計画「ねらい」社会的発達の視点における抽出ワード

	抽出ワード	保育指針の「ねらい」の表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
X	X-①	・安心できる関係の下	3	20
		・身近な人と	11	
		・共に過ごす喜びを感じる	6	
	X-②	発語・喃語・言葉のやりとり 指差し・しぐさ 二語文 欲求・思い	15	66
		・保育士と	25	

		・気持ちを通わせようとする	表現する・思いが伝わる 受け止めてもらう 楽しむ 触れ合って遊ぶ 共感してもらう 関わり方を知る・存在を感じる	26	
X-③		・身近な人と	保育士・友達	2	4
		・親しみ	同じ場で遊ぶ	1	
		・関わりを深め	触れ合いを楽しむ	1	
		・愛情や信頼感が芽生える		0	

表13-2より、社会的発達に関する視点は、視点X-②の記載が多かった。「体の動き、表情、発声」を捉えた「ねらい」からは、「発語・喃語・言葉のやりとり・指差し・しぐさ・二語文」等を15回使い、0歳児の言葉の発達に合わせた具体的なワードを用いていた。「保

育士と」については、「保育士・友達と」が25回、「気持ちを通わせようとする」は「表現する・思いが伝わる・受け止めてもらう・共感してもらう」等を26回使い、保育指針の「ねらい」に類似した様々な言葉を用い表現していた。

③ 精神的発達に関する視点の記載事項

表13-3 F保育所個別指導計画「ねらい」精神的発達の視点における抽出ワード

		抽出ワード	保育指針の「ねらい」の 表現に類似したワード	抽出数	抽出合計数
Y	Y-①	・身の回りのものに親しみ		0	0
		・様々な物		0	
		・興味や関心をもつ		0	
	Y-②	・見る、触れる、探索する	好きな遊びを見つける・楽しむ 探索活動	8	11
		・身近な環境	いろいろなところ・戸外	3	
		・自分から関わろうとする		0	
	Y-③	・身体の諸感覚		0	0
		・認識が豊かになる		0	
		・表情や手足、体の動き		0	
		・表現する		0	

表13-3より、精神的発達に関する視点の記載も少ないことがわかる。視点Y-②から「好きな遊びを見つける・楽しむ・探索活動」が8回、「いろいろなところ・

戸外」を3回使い、F保育所にある身近なものに関わる経験を視点に置いていることが読み取れた。一方、視点Y-①と③の記載はなかった。

④ 三つの視点以外の記載事項

表 13-4 F 保育所個別指導計画「ねらい」基本的生活習慣の視点における抽出ワード

	抽出ワード		保育指針の「ねらい」の表現に類似しないワード	抽出数	抽出合計数
Z	Z-①	・着脱	着脱をする	6	17
			自分でやろうとする	11	
	Z-②	・身支度	身の回りのことを自分でやろうとする(自分の持ち物を持ってくる、靴を履こうとする)	6	6
	Z-③	・排泄	オマル・便座に	16	34
			慣れる 座って・排泄しようとする	18	

表 13-4 より、基本的生活習慣の項目である「着脱」「身支度」と「排泄」で捉えた視点が記載されていた。排泄に関しては、「オマル・便座に」が 16 回、「慣れる・座って・排泄しようとする」を 18 回用い、排泄の自立に向け、オマルや便座に座る行為に視点を置いていることが読み取れた。着脱は、「着脱をする」が 6 回、「自分でやろうとする」を 11 回用い、着脱の経験から意欲を育てようとしている視点があることを推察した。また「身支度」に関しては、「身の回りのことを自分でやろうとする」を 6 回用いていた。「身の回りのこと」という言葉の表現が持つ意味は広く、F 保育所がどこに視点を置いているのか読み取れなかった。「内容」や「配慮事項」の記載内容から、「自分の持ち物がわかり持ってくる」「靴を自分で履こうとする」ことを表していたことがわかった。

IV. 考察

6 か所の個別指導計画から、保育指針の三つの発達の視点である、身体的、社会的、精神的発達の「ねらい」の抽出ワードにあてはめ、分析した結果、記載事項の傾向が明らかになった。以下、本研究の結果から考察する。

1. 三つの視点から捉えた 0 歳児個別指導計画記載事項の比較

抽出ワードの比較の結果、6 か所の個別指導計画は、共通して精神的発達に関する「ねらい」の記載が少ないことが明確になった。個別指導計画の「ねらい」の中で、精神的発達に関する視点の表現に類似した言葉は、11 か月児と 12 か月児を対象に「探索活動」が多く使われていた。ハイハイや歩行等、身体的機能が身についた子どもは、自分から身近な環境に関わろうとする姿が見られるようになり、保育士は「探索活動」として「ねら

い」の中で表現していることが推察された。しかしながら、身体機能が未熟な子ども達も、自分を取り巻く環境に体を通して触れ、様々な刺激を感じ取っている。保育士は、身の回りの環境に対する一人一人の子どもの興味、好奇心の育ちを理解し、個別指導計画の「ねらい」を捉えていく必要があると考える。また、三つの視点以外から保育所が立案した「ねらい」は、基本的生活習慣の項目にある「着脱」や「排泄」に視点が置かれる傾向があることがわかった。保育士が、生活習慣の自立に向けた援助を「ねらい」の中で重視していることが読み取れた。各保育所の個別指導計画は、計画立案者により、「ねらい」に対する視点の捉え方に違いがあることも明らかになった。身体的発達に関する視点を重視して記載する傾向（B、C 保育所）、身体的・社会的発達に関する視点を視して記載する傾向（A、E、F 保育所）、三つの視点全体から記載する傾向（D 保育所）に分かれた。個別指導計画は、今までの慣例的な考え方や各立案者の視点の置き方に任されて「ねらい」が立案されてきたため、記載傾向の違いが生じていると推察される。個人差や月齢の違いによる発達の差が大きい子どもの育ちつつある姿をどのように捉え、「ねらい」に反映させたらよいか、子どもの姿を読み取る視点が明確になっていないことが示唆される。阿部（2019）は乳児保育の理論と実践において、乳児の発達の特性を捉える時「三つの発達に関する側面が絡まり合って、子どもの発達の姿が初めて見えてくるものである。保育士は、子どもの発達を要素ごとに見るのではなく全体像を理解することが重要である」と述べている。子どもの姿を三つの視点から捉え、育ちに必要な援助を個別指導計画の作成に結び付けていきたいと考える。本調査で、精神的発達に関する「ねらい」の記載が少なかった点や立案者により重視する視点に違いがあった結果より、保育士が子どもの育ちつつある姿をどのように見取っているか、分析していく必要もあると考えられる。

2. 各発達に関する視点から捉えた0歳児個別指導計画 記載事項の比較

各発達に関する視点から比較しても、立案者により重視する視点に違いがあることは明確であると考ええる。

身体的発達に関する視点Wを捉えた記載事項では、共通して6つの保育所が「ねらい」の中で視点W-③を重視して記載していたことがわかった。主に「食事」に関する視点の「ねらい」が多く、各保育所の保育士が乳児に対し育てたい「ねらい」として捉えていることが読み取れた。睡眠、生活リズムに関する記載は少なく、特に「生活リズムの感覚が芽生える」については、共通して記載が少ないことがわかった。乳児は、食事、睡眠、着脱等の経験を通し、「心地よさ」を学習していくものである。毎日の何度も繰り返される経験の中、心地よさの感覚が育まれ、生活リズムの感覚を培っていると考ええる。保育士は、基本的生活習慣の項目である「着脱」や「排泄」を「ねらい」の視点に捉えられていたが、子どもの姿から生活リズムの感覚の芽生えや育ちをどのように見取っているか、調査していく必要もあると考える。視点W-①の「心地よさを感じる」に対しては、6か所共に環境に慣れることや安心して過ごすことに視点を置いていた。視点W-②の運動に関する視点では、B、D、F保育所が「歩行」「はう」「つかまり立ち」等のワードで具体的な記載があった。

社会的発達に関する視点Xから捉えた記載事項は、B、C、E保育所が記載は少なかった。社会的発達の関する視点Xの中で比較すると視点X-①の記載が多い(E保育所)、視点X-②の視点が多い(F保育所)、視点Y-③の記載が多い(D保育所)、視点X-①と②が多く記載されている(A保育所)と違いがあった。さらに、視点X-③の身近な人と親しみ・関わりを深める「ねらい」においては、6保育所が共通して、「愛情や信頼感が芽生える」のワードに関する記載がなかったことがわかった。保育指針に明記された社会的発達に関する視点、「ねらい」に着目すると、視点X-①「身近な人と共に過ごす喜びを感じる」、視点X-②「保育士等と気持ちを通わせようとする」、視点X-③「愛情や信頼感が芽生える」より育ちの過程を重視し、互いが関連し合った「ねらい」になっていることが読み取れる。保育士は、子どもが「喜びを感じる」「気持ちを通わせようとする」ために必要な関わりや働きかけに重点を置く傾向が高いことが推察された。身近な人と気持ちが通じ合い、「愛情や信頼感が芽生える」子どもの育ちに対し、保育士がどのように発達の姿を見取っているのか、本調査からは読み取ることができなかった。保育士が、社会的発達に関する視点X-①から③について、子どもの育

ちつつある姿を具体的にどのように捉えているのか、検証したいと考える。

精神的発達に関する視点Yは、前述したように、6保育所の個別指導計画の中で記載の少ない傾向を読み取った。6か所の中で、抽出ワードが一番多かったD保育所は、「探索活動・好きな遊び」のワードが多く、B、C、E、F保育所からも「探索活動」の記載が見られた。保育士は、身近なものとの関わりを考えた時に「探索活動」という言葉が表現しやすいことを読み取った。精神的発達に関する「ねらい」の記載の低さに関しては、碓氷・清水・千葉(他)、波田埜、中島(2019)が以下の研究で取り上げている。「保育所保育指針の改定や幼保連携認定こども園教育・保育要領の改定後に新たに取り入れた保育内容・実践等に関する調査研究」によると、精神的発達に関する視点における指導計画への反映状況の低い項目があったことを示した。従来の保育指針の下では保育内容・実践において精神的発達に関する視点が比較的に弱かったことも示唆していた。本研究でも、精神的発達に関する視点における「ねらい」の記載状況が低く、保育士が精神的発達に関する子どもの育ちをどのように捉え、見取っているか調査していく必要がある。精神的発達に関する視点を含め、保育士が三つの視点から子どもの育ちつつある姿をどのように捉えるか、またどのように計画に繋げていくか、今後の課題の一つになる。

V. 総括と今後の課題

本研究の目的は、認可保育所の0歳児個別指導計画の実態について調査を行い、「ねらい」に着目して比較検討し、その結果から個別指導計画の課題を明らかにすることである。A・B・C・D・E・F保育所の0歳児個別指導計画からは、個別指導計画の「ねらい」の中で重視する視点が、立案者により違いがあることが明らかになり、6か所からは3つの傾向が示された。

乳児保育に関わるねらい及び内容が示す三つの発達の視点から捉えると、本調査では身体的発達に関する視点を重視する傾向、身体的・社会的発達の視点を重視する傾向があった。また、身体的発達に関する視点の中では、基本的生活習慣論の項目である「食事」を重視し、精神的発達に関する視点は記載が少ないという特徴も見られた。神長(2018)は教育課程論において、指導計画作成時の子どもを見る視点を「個別指導計画では、前月の子どもの姿からその子の『今、ここ』の姿を捉え、健康・安全に十分配慮し、養護と教育の一体化を意識しながら三つの視点をバランスよく考慮して作成する」と述

べている。本調査では、精神的発達に関する視点から捉えた「ねらい」の記載が少なく、三つの視点がバランスよく考慮した個別指導計画の作成が見られなかった実態より、保育士が子どもを見る視点、や指導計画への反映の仕方に悩みや課題があるのではないかと推察する。また、慣例的な考え方や各立案者の視点の置き方により、指導計画が立案されてきたのであれば、個別指導計画を系統的に学ぶ研修も今後は必要になってくる。一人一人の子どもの姿を捉えることは、個別指導計画作成の基盤となるものであり、その捉え方は各保育士の子ども観や保育観からも影響を受ける。したがって保育士は、三つの発達に関する視点から目の前にいる乳児を見た時「今、何が育ちつつあるのか」「何を伝えたいと思っているのか」丁寧に読み取り、体験してほしいことを捉えていきたいと考える。一人一人の乳児の育ちを捉えた個別指導計画を作成するため、保育士が「乳児の姿をどのような視点で捉えるか」明確にしていくことが必要となる。また、一人一人の乳児の育ちを捉えた時、個別指導計画の中で「ねらい」としてどのように反映させていくか、その方法も計画作成の課題になると考える。

本研究は、0歳児クラスの個別指導計画の「ねらい」に着目したが、「内容」や「子どもの姿」からも、記載事項を比較分析することで個別指導計画の実態がより一層明確になると考える。また、本調査は限定的な6か所の実態調査であったため、今後は調査対象保育所を拡大し個別指導計画の実態調査の継続した研究も必要となる。さらに、0歳児クラスの担当者が、実際に感じている個別指導計画作成の困難さを調査し、実証的な検討からも課題を捉えていきたいと考えている。

注

- 1) 乳児とは、児童福祉法より乳児を満1歳にならない者、幼児を満1歳から小学校就学の始期に達する者として区別し、乳児を「0歳児」と表す。
- 2) 完了食とは、形ある食物を噛みつぶすことができるようになり、エネルギーや栄養素の大部分が母乳または育児用ミルク以外の食物からとれる状態になったことをいう。その時期は、厚生労働省Ⅱ離乳編に明記している生後12か月から18か月ころである。
- 3) 基本的生活習慣とは、乳幼児の場合、生活に必要な活動が自分で出来ることを目標とし、通例、①食事、②着脱衣、③清潔、④排泄、⑤睡眠の5項目があげられる。
- 4) 幼児食とは、完了食を卒業した1歳過ぎから6歳ごろまでの食事のことを指す。

文献

- 阿部和子 大方美香 (2019). 乳児保育の理論と実践 光生館
- 市川奈緒子 仲本美央 (2021). インクルーシブ保育に向けた個別指導計画と課題－保育現場における実態調査を踏まえて－ 白梅学園大学・白梅学園短期大学紀要, 57, 31-48.
- 漁田俊子 山田悟史 酒井範子 宮地由紀子 那須恵子 漁田武雄 久保田貴之 日隈美代子 (2018). 3歳未満児の発達と保育：保育現場における現状と環境 環境と経営, 第24巻第2号, 27-36.
- 石川恵美 (2019). 乳児保育における現状と課題－保育者アンケートを手がかりに－ 兵庫大学短期大学部研究収録, 54号, 1-8.
- 神長美津子 津金美智子 河合優子 塩谷かおり (2018). 教育課程論 光生館
- 小島千恵子 市野繁子 (2019). 乳児保育の充実－保育所保育の現状からの一考察－ 名古屋短期大学研究紀要, 第57, 37-49.
- 小山優子 (2017). 保育現場における保育カリキュラムに関する研修のあり方－松江市乳幼児保育・教育サポート授業の事例を中心に－ 島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要, Vol.56, 41-50.
- 厚生労働省家庭局 (2017). 保育所諸指針〈平成29年告示〉フレーベル館
- 三好年江 (2012). 保育所における指導計画作成に関する実態調査－保育士のアンケートをもとに－ 新見公立大学紀要, 第33巻, 169-175.
- 小笠原明子 前田康弘 匠瑤岳美 (2020). 幼児にたいする個別指導計画作成の現状と意義 こども学院, 2巻, 55-66.
- 大方美香 (2009). 乳児保育における保育の計画 大阪総合保育大学紀要, 第4号, 129-143.
- 大方美香 (2017). 保育所保育指針における乳児保育の実践構造の検討－乳児保育研究その4－ 大阪総合保育大学紀要, 第12号, 19-42.
- 汐見稔幸 無藤隆 (2018). 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント ミネルヴァ書房
- 碓氷ゆかり 清水益治 千葉武夫 森俊之 西村重稀 成田朋子 水上成子 青井夕貴 吉岡眞知子 波田埜英治 中島一 (2019). 保育所保育指針の改定や幼保連携認定こども園教育・保育要領の改定後に新たに取り入れた保育内容・実践等に関する調査研究 保育科学研究, 第10巻, 1-28.
- 渡部(君和田)容子 (2006). 保育指導計画の意義と指導計画の立案指導 鳥取短期大学研究紀要, 53号, 31-38.

付記

本論文は筆者の大阪総合保育大学大学院児童保育研究学科児童保育専攻博士前期課程における令和3年度修士論文「乳児の育ちを捉えた個別指導計画」～実態調査をもとに～を元に加筆修正したものである。なお、本論文に関して、開示すべき利益相反事項はない。

Analysis of Individual Tutoring Plans for Infant-Level Classes : Focusing on the “Aims” of Nursery School Individual Tutoring Plans

Akiko Arai

Osaka University of Comprehensive Children Education Graduate School

This study investigates the current state of individual tutoring plans in the infant-level class, and clarifies the issues of creating individual tutoring plans from comparative studies focusing on “Aims”. As infants are at a stage where mental and physical development and growth are remarkable and individual differences are also large, it is necessary to create individual tutoring plans so that childcare that aligns with the condition of each child can be developed. In this study, we analyzed the items described under “Aims” for the tutoring plans for infants of six licensed nursery schools. As a result, it became evident that the viewpoint of emphasis on “Aims” differs depending on the planner. To create a tutoring plan that captures infant upbringing, it is necessary to review the “Aims” and clarify “the perspective from which childcare workers perceive infants”.

Key words : infant care, daycare center childcare guidelines, individual tutoring plans,
three perspectives, understanding of children